



松江第一中学校だより

すべての生徒が安全・安心に生活し、夢や希望に邁進できる学校を築く

江戸川区立松江第一中学校

江戸川区松江5-5-1

校長 瀬戸 完一

令和8年1月20日 第9号

「あいさつ」と「感謝の言葉」

校長 瀬戸 完一

2026年が始まりました。松江第一中学校教職員を代表いたしまして、今年もどうぞよろしくお願いいたします。

あっという間に3学期の3週目をスタートすることになりました。この学期は年間で一番短く、授業日数は1・2年生が51日、3年生が48日となります。「1年間のまとめの学期」「次のステップへの準備の学期」など短い時間ではありますが、なすべきことが多くある学期です。生徒の皆さんは、もう一度年度当初などに各自が考えた目標を確認し、達成するための努力を最大限していきましょう。限られた時間ではありますが、具体的な行動を継続しながら定期的に自らを振り返ってみてください。自分の可能性を信じて、行動の一步を踏み出しましょう。それぞれの夢や希望に向かって邁進してください。応援しています。

さて、今年度残りの学校生活をより豊かな時間にするために「あいさつ」と「感謝の言葉」を改めて大切にしていきたいと思います。皆さんにはお互いの心を通わせ、繋がりを大切にしていける豊かな人間関係を築いてほしいと願っております。「あいさつ」はよりよい人間関係をつくるコミュニケーションのひとつです。良好な人間関係を構築する土台となり、お互いの心の距離を縮めるきっかけとなります。あいさつを交わすことは心の交流を促し、互いに親しみを増していくための第一歩になるのではないのでしょうか。「感謝の言葉」を身近な人に伝えることには恥ずかしさを感じる人もいます。人の役に立った、人から感謝された、人から認められた、人に喜んでもらえた、…等の気持ちは相手の存在なしでは生まれてはこないのです。だからこそ伝えることが大事なのではないのでしょうか。温かい言葉は心にそっと寄り添って、大きな喜びや自信を与えてくれます。身近な人に感謝される、褒めれる、喜ばれることは誰にとっても大変嬉しいことです。お互いの心が温まり、幸福を感じることができます。

私たちの話し方や立ち振る舞いは、そこにいる人たちにも影響を及ぼします。何気なく発した言葉が他の人に影響を与えることはよくあることです。「言葉づかい」は「心づかい」と言われることもあります。相手を思いやり、言葉に心をのせて行動することを大切にしてみませんか。そうすれば、いつか必ず相手の気持ちに届くのではないのでしょうか。本当に気持ちのこもった言葉というのは、人の心に感動を与えるものですから。

「あいさつ」と「感謝の言葉」は生活に規律と潤いをもたらし、温かで安心できる関係を築くことができます。我々是一緒に過ごしながら何気なく触れ合い、会話を積み重ねながらお互いの距離を近づけています。繋がりはお互いを高め合う機会ともなり、視野を広げ、新たな発想を生み出してくれます。共に過ごす一瞬一瞬を大切にし、お互いのよさや可能性を発揮しながら、仲間と協力して物事を成し遂げ、素晴らしい3学期にしましょう。

子どもたちは家庭、学校、地域社会の中で多くの大人に見守られることで、健やかに育っていくと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。保護者、地域の皆様と多くの方々に本校を支えていただけたこと、心温まるお言葉に深く感謝申し上げます。学校としては今できることを大切に、これからも生徒目線で進めていかれればと思っております。今年もご理解とご協力をいただきたく、重ねてよろしくお願い致します。